

## PIERIA 料理イタリア語文法講座 レベル1 第3課

### 3.1. 不定冠詞

不定冠詞は、ひとまず英語の **a, an** のようなものと考えておいてください。

つまり、聞き手に話し手の指すものが了解されていないときに、その名詞の前につける冠詞です。イタリア語の不定冠詞の形態は次のとおりです。形から想像されるように、もともとは数詞の「1」が弱まってできた語です。

男性	単子音で始まる名詞の前 (標準形)	un	un ragazzo (男の子)
	母音で始まる名詞の前	un	un amico (友達)
	連続した子音で始まる名詞の前*	uno	uno studente (学生)
女性	子音で始まる名詞の前 (標準形)	una	una ragazza (女の子)
	母音で始まる名詞の前	un'	un'amica (女友達)

料理用語で例を見てみましょう。

un pomodoro (トマト)	un cavolo (キャベツ)
un antipasto (前菜)	un agnello (子羊)
uno spumante (スパマンテ)	uno zenzero (ショウガ)
una carota (ニンジン)	una mela (リンゴ)
un'arancia (オレンジ)	un'insalata (サラダ)

\* これらの原理は定冠詞のところでお話ししたことと同様です。un の後に2つの子音で始まる名詞が来ると、3つの子音を連続して発音しなければならず、これが読みくいために、「古形」の uno が用いられます。

### 3.2. 冠詞の機能

定冠詞と不定冠詞の機能を大ざっぱに説明すると、下記のようになります。

定冠詞 (il, la)	話者が「聞き手は特定できる」が考えている物
不定冠詞 (un, una)	話者が「聞き手は特定できない」と考えている物

これを日本語で考えてみましょう。

昨日 あるイタリアンレストラン に行ったのだが、味はいいし、値段は手ごろだしとても気に入った。シェフはピエモンテで3年間修業していたそうだ。

この場合、あるイタリアンレストラン は聞き手にとってイメージされていないので不定冠詞が付きます。味、値段、シェフは「そのイタリアンレストランの」というイメージができあがっていますから、定冠詞がつくわけです。(このようなイメージの固定を「特定化」と呼びます。)

わかりにくい場合は、ひとまず英語の定冠詞 **the** に対応するのが **il**、不定冠詞 **a** に対応するのが **un** だと考えておくとよいでしょう。実際には、英語に比べて定冠詞を積極的に用いるなどの違いがあるので、例文を読みながら観察を続けてください。

(略)

### 練習問題 (3)

I 次の単語の意味を調べ、不定冠詞と定冠詞を書きなさい。

		意味	不定冠詞	定冠詞
1	pesca			
2	zucca			

(略)

II 次のイタリア語を日本語に訳しなさい。

- 1) Ecco una zuccina.
- 2) Il menu è sotto la tovagiolo.

(略)

III 伊作文

- 1) ほらここにトマトが一個あります。
- 2) そのピザ (pizzeria) は学校 (scuola) の裏 (dietro) あります。

(略)

### 【コラム 3：バールのメニュー①】

バールのメニューは、どこにあるのかわかりにくいし、あってもカウンターの奥で読みづらいもの。けれども、イタリア人は困りません。なぜならバールのメニューは、イタリア全国でほぼ共通だからです。皆さんもメニューの前で迷うことなく、イタリア人のようにさっと頼んで立ち飲みできるようになりましょう。

#### **caffè espresso (エスプレッソ)**

正式には **caffè espresso** というのですが、イタリアで **caffè** と言えば、ドリップコーヒーではなくエスプレッソです。

**espresso** は **esprimere** 「搾り出す」という動詞の過去分詞（11 課で勉強します）からきた言葉で、形容詞として「急行の」「速達の」の意味があります。語源については諸説ありますが、「蒸気がコーヒーフィルターをすばやく通過するから」というのが一番もっともらしいですね。

(略)